

# 前方後円墳の伝播

平 良 泰 久

北丹波は京都府の北部にあたり、日本海にそそぐ由良川の中流域に開けた東西に細長い福知山盆地を中心とする地域である。この地域の古墳時代の首長墓の展開についてはすでに述べたことがあり<sup>1</sup>、別にまとまった著作もある<sup>2</sup>。その大要は、弥生墳墓的な方墳を基調とし、その中から段築・葺石・埴輪の外表3要素を備えた大型の方墳が首長墓として成立、その後5世紀の後半に新たに40、50m級の前前方後円墳の築造が始まり、それを契機に後期群集墳が展開する、というものである。

その後、開発に伴う古墳の発掘が急速に増え、新発見があい次いでいる。中でも、1986年の福知山市広峯・寺ノ段古墳群および綾部市野崎古墳群、1987年の綾部市私市円山古墳、1988年の綾部市青野西遺跡(弥生時代終末期の前前方方形周溝墓)、1989年の福知山市ヌク



第1図 広峯・寺ノ段古墳群分布図(『駅南地区発掘調査報告書』から作成)

モ古墳群(中国製盤龍鏡)は注目すべき発掘である。私市円山古墳は、大型方墳と前方後円墳との間に大型円墳の段階があること、すなわち「大型方墳→大型円墳→前方後円墳」という首長墓の墳形変化のより一層の図式的理解を可能にし、また野崎古墳群は、それまで推測の域を出なかった前方後円墳を出現の契機とする群集墳の姿を実証した。ところが、景初四年銘鏡の出土で一躍全国に名を馳せた広峯15号墳は、これまで知られていた前方後円墳よりはるかに古く、上掲の前方後円墳出現の図式に合わない。小稿は、当地への前方後円墳の伝播の問題を、この広峯15号墳の出現をめぐって検討を試みたものである。

## 1 広峯15号墳の年代

**古墳群の概要** 広峯古墳群は、福知山市の南郊の丘陵上にある。土地区画整理事業に伴い、1986・87年に福知山市教育委員会によって発掘調査が行われた。以下、報告書<sup>3</sup>をもとに概要を記す。

西側の広峯古墳群では計15基、東側の寺ノ段古墳群では計7基の墳墓・古墳を確認した。広峯古墳群では、もとはさらに19基ほどの古墳があったとみられるが、流出して詳細不明。内容の判明した両古墳群の墳墓・古墳の概要は、第2・3図、第2表のとおりである。

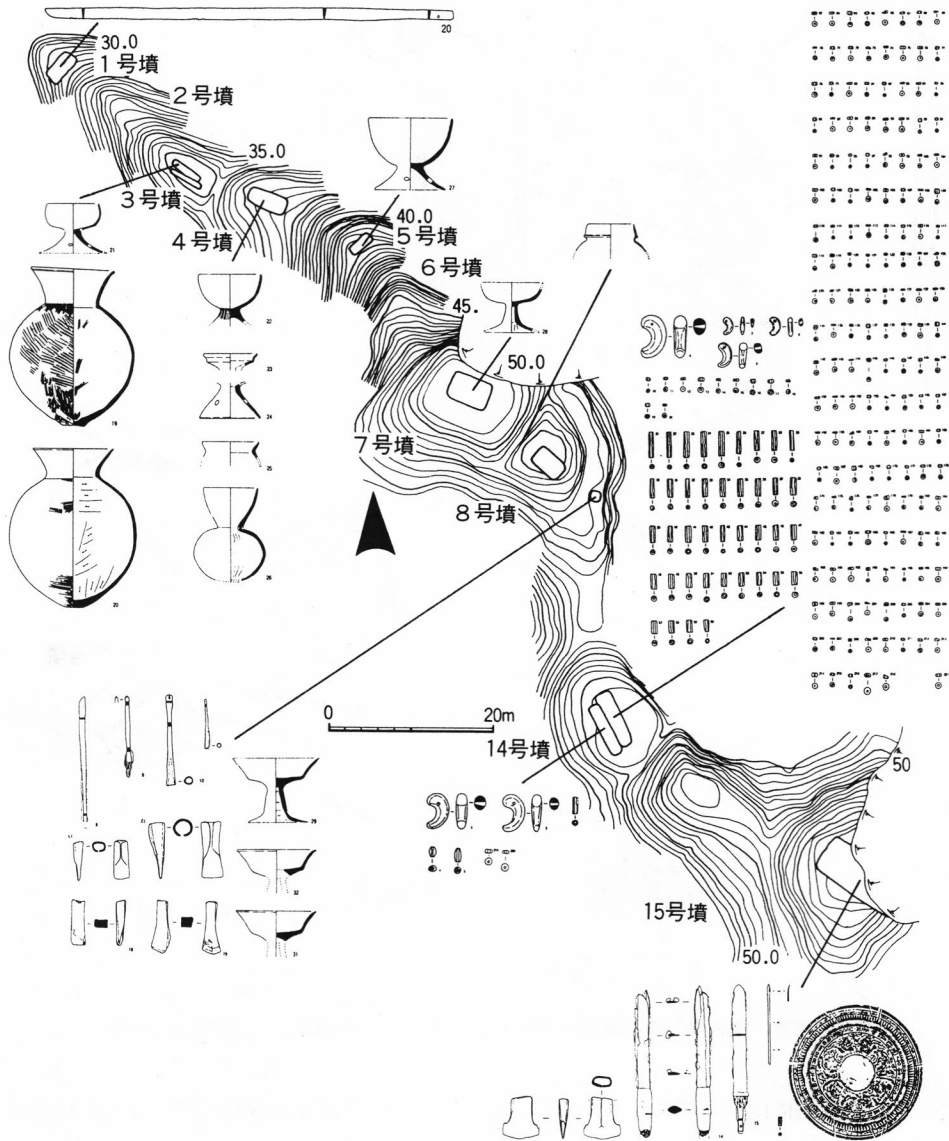
両古墳群の変遷について、発掘を担当した崎山正人は、出土土器からI期(布留式古段階、4世紀前半)、II期(布留式中～新段階、4世紀後半～5世紀前半)、III期(須恵器出現以降、5世紀中葉～後半)の3期に分け、さらに15号墳の出現をもってII期を前・後の2小期に細分し、第1表のように整理した。広峯古墳群は、各時期とも隣り合う2基がセットで築かれている。

**15号墳の年代** 問題の広峯15号墳は、墳丘の長さ40mほどの前方後円墳であり、後円部中央の長大な箱形木棺から中国製盤龍鏡や管玉・武器・工具が出土している。いわゆる前期の副葬品の組合せであり、知り得る限り北丹波最古の前方後円墳であることは疑いないが、年代を限定する遺物がなく、細かな年代比定のむずかしい古墳である(崎山は4世紀後半代に位置づける)。この問題を解く鍵は、15号墳とセットになる14号墳にある。

**14号墳の年代と15号墳** 14号墳は、15号墳の西側にある円墳であって、墳丘の切合関係から15号墳に遅れて築造されたことが判明している。副葬品は玉類と豎櫛のみであるが、玉類の材質に特徴がある。多数の滑石製の白玉を含み、その他の玉類もまた滑石製品が卓越する。勾玉は、6点中5点が滑石、残り1点も碧玉である。管玉には、碧玉だけでなく多数の滑石を

第1表 広峯・寺ノ段古墳群の変遷

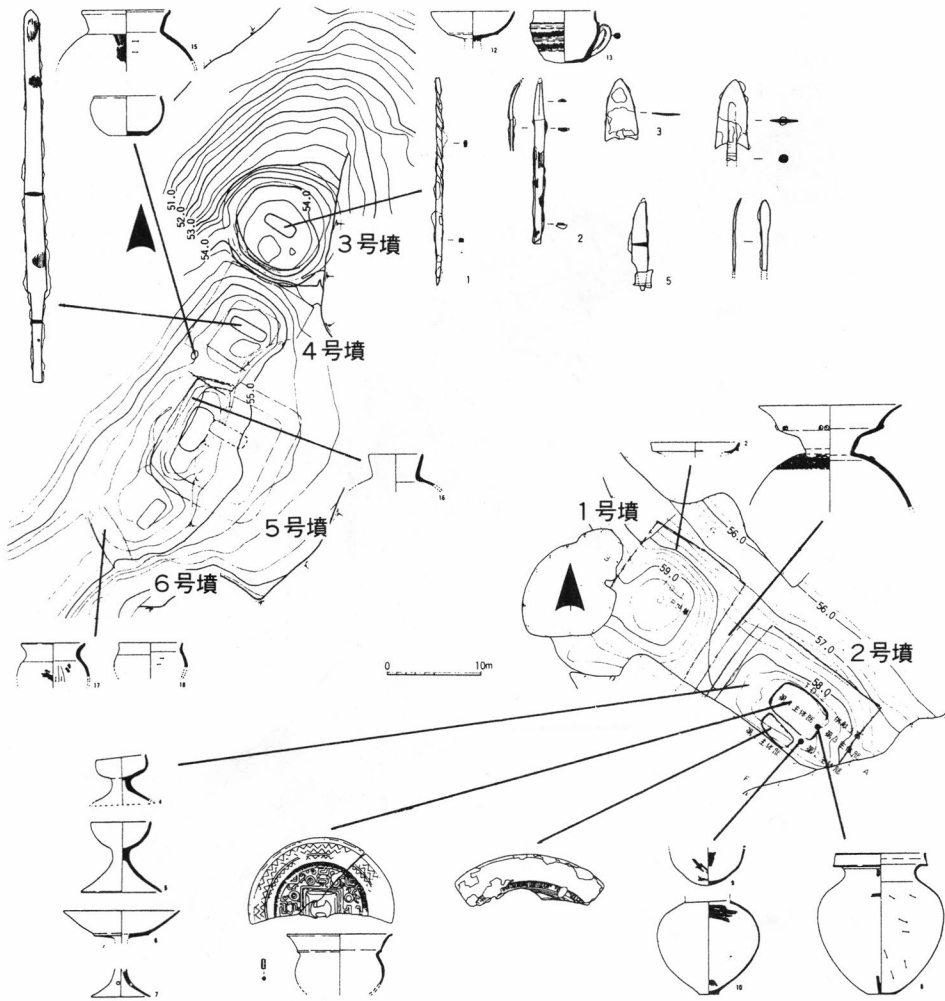
	I期	II期		III期
		前半	後半	
広峯	3・4	7・8	15・14	29・34
寺ノ段	1・2			3



第2図 広峯古墳群の副葬品・供献土器(『駅南地区発掘調査報告書』から作成)

含み、棗玉も滑石である。滑石は、石製模造品の石材として前期末に出現し中期に盛行する。白玉以外の玉類に滑石が卓越すること自体異例であるが、中期の滑石製模造品の盛行の中に位置づけてよい。1点ある碧玉の勾玉も、それまでもっばら硬玉であったものに、前期末に新しく加わる石材の一つであって、堅櫛もまた前期末に出現、中期前半に盛行する副葬品である。

これらの副葬品からみた14号墳の年代は、古くても前期末を遡らず、中期前半に位置づ



第3図 寺ノ段古墳群の副葬品・供献土器(『駅南地区発掘調査報告書』から作成)

け得る。時間的には14号墳に先行するが、それと一対で理解すべき15号墳もまた、14号墳と同時代に位置づけるべきこととなる。ちなみに、15号墳の鉄製の武器・工具を主体とする副葬品と、14号墳の玉・櫛とは対比的である。15号墳の被葬者に男性首長を、14号墳の被葬者に女性司祭の姿をみる事が可能である。

**古墳群の変遷** ここで、古墳の流れを整理しておこう。土器からみた上掲の整理によれば、広峯古墳群は、丘陵の低い方から順次高い方に移っており、年代比定の根拠を欠く古墳もこの流れの中に位置づければ、[1・2号墳] → [3・4号墳] → [5・6号墳] → [7・8号墳] → [15→14号墳] となる。その他の古墳の年代は、6世紀前半の29号墳を除いて明確ではないが、同じ丘陵上で6世紀後半～7世紀前半の集落が営まれており、古

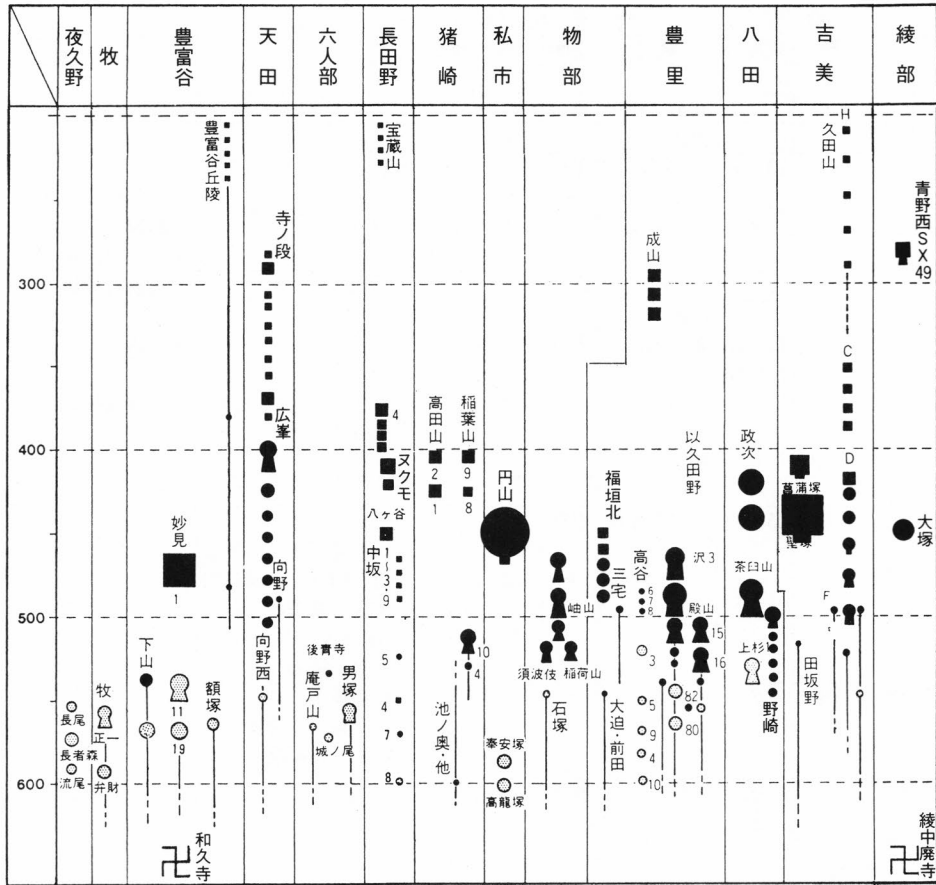
第2表 広峯・寺ノ段古墳群一覧

古墳	墳丘		埋葬施設			副葬品	供献土器
	形	規模m	構造	主軸	規模m		
広峯古墳群							
1号墳	テラス	—	箱形木棺	直交	?	刀1	
2号墳	〃	—	流出	—	—	—	
3号墳	方	10×8	1. 木棺? 2. 〃	平行	? ?	なし 〃	土師器壺2、高杯1
4号墳	〃	〃	箱形木棺	〃	3.1×0.5	〃	土師器壺2、台付鉢1、小型器台2
5号墳	テラス	—	〃	直交	?	〃	土師器台付鉢1
6号墳	〃	—	流出	—	—	—	
7号墳	方	17×16	箱形木棺	平行	2.6×0.7	なし	土師器高杯
8号墳	〃	10×10	〃 土壙墓?	〃 —	2.4×0.7 1.2×1.2	〃 斧2、ノミ3、鈍1、 砥石2	土師器高杯5
9号墳	テラス	—	流出	—	—	—	
10号墳	〃	—	〃	—	—	—	
14号墳	円	15×13	1. 箱形木棺 2. 〃	平行	? 5.2×0.7	滑石勾玉2、管玉1、 滑石棗玉2、白玉2 碧玉勾玉1、滑石勾 玉3、管玉42、白玉 700以上、ガラス小 玉24、豎櫛3	
15号墳	前方後円	40	箱形木棺	〃	3.6以上×0.7	盤龍鏡1、剣1、斧 1、鈍1、管玉2、 槍1、皮製品1	
17号墳	円	12	木棺	直交	?	刀1	
29号墳	〃	?	流出	—	—	—	
34号墳	〃	?	〃	—	—	—	
寺ノ段古墳群							
1号墳	方	11×10	流出	—	—	—	土師器壺
2号墳	〃	15×15	1. 土器棺 2. 〃 3. 木棺 4. 箱形木棺	— — 平行 〃	0.38×0.38 0.5×0.47 ? 2.3×0.7	なし 〃 内行花文鏡片1 方格規矩鏡片1、ガ ラス管玉1	土師器鉢1、高杯2
3号墳	円	12	箱形木棺	直交	2.7×0.5	鈍1、鏃3	土師器高杯1、須恵 器把手付碗1
4号墳	方	10×10	木棺 土壙	〃 —	? 1.1×0.55	なし 〃	土師器碗1
5号墳	〃		木棺	直交	?	〃	土師器壺2
6号墳	〃	9×9	〃	平行	?	〃	土師器

埋葬施設の主軸は、丘陵尾根筋に対する方向である。

墳群は6世紀前半代に終息するとみてよい。

一方、東の丘陵上の寺ノ段古墳群は、庄内Ⅱ式の段階の1・2号墓と隣接する尾根上の4基の古墳(6→5→4→3号墳の順に築造。3号墳の須恵器は陶器TK208型式)との間には長い空白がある。



※凡例 ● 木棺直葬系墳 ⊕ 横穴式石室墳

第4図 北丹波の古墳の変遷(『丹波の古墳I』をもとに改作)

両古墳群は、空白期が補完関係にあるようにもみえるが、発掘以前に失われた古墳も想定されるので、ここでは崎山が述べるように、平行して営まれた2系譜とみておこう。その場合でも、両者は弥生時代終末期の方形墳墓に始まり、5世紀前半代に前方後円墳を築造、その後墳形は円墳に変わる。埋葬施設も、はじめ丘陵の尾根筋に平行する方向のものが卓越していたのが、後に直交するという共通性がある。最初は寺ノ段古墳群が優勢(1・2号墓)だったが、後に広峯古墳群に主導権が移った(7・8、15・14号墳)とみられる。15号墳との関連で注意したいのは、前方後円墳の築造を契機に古墳群が優勢になるなどの大きな変化がみられないことである。ちなみに、最大の画期は、6世紀前半における古墳の築造停止である。同様な現象は、近隣の豊富谷でもみられる。すなわち、弥生時代後期から連綿と方形の墳墓を営み続けた狸谷・大道・論田・谷尾谷など豊富谷丘陵の古墳群

は、6世紀前半に一斉に古墳の築造を停止<sup>4</sup>、以後古墳は和久川の対岸に移る。この時期は、北丹波の古墳の1つの画期である。

## 2 広峯15号墳の性格

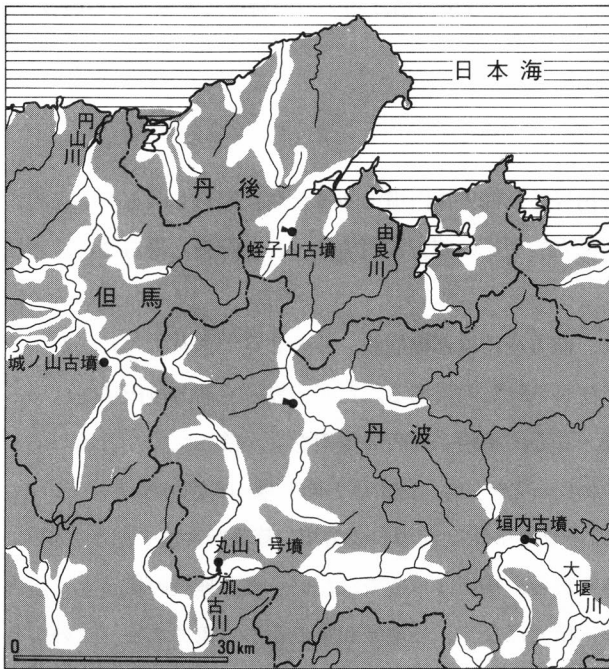
広峯15号墳は、北丹波に初めて出現した前方後円墳であったが、なおしばらくは大方墳の時代が続く。現状ではいささか孤立的なこの前方後円墳は、どう評価し得るのか、古墳の内容を2、3検討してみよう。

**前方後円墳** この古墳の特色は、前方後円墳と盤龍鏡、この2点であり、これが畿内政権との結び付きを示すものとして注目されたのである。だが、等しく前方後円墳とはいっても、畿内の本格的なそれが段築・葺石・埴輪の外表3要素をもつ飾りたてた古墳であるのに比べ、広峯15号墳は外表3要素の一切を欠き、台状墓と同じ地山を削り整えただけの、いわば無加飾の前方後円墳である。一方、5世紀前半の大方墳、菖蒲塚古墳・聖塚古墳が、外表3要素を完備しているのであるから、様相は単純ではない。埋葬施設の構造も、畿内の前期古墳の典型とされる割竹形木棺ではなく、当地域在来の箱形木棺である。このようにみても、この前方後円墳の出現が、報告書も指摘するように、畿内との直接の関係にもとづくものかどうか問題があるが、この点については後述する。

**盤龍鏡** 副葬品もまた、他の古墳と著しい優劣がある訳ではない。たとえば、同じ5世紀前半のヌクモ2号墳は、小規模な方墳だが、箱形木棺から中国製盤龍鏡・勾玉・管玉・

第3表 北丹波出土鏡一覧

古墳	時期	鏡			備考
		型式	直径cm	製作地	
福知山市狸谷17号墳	弥生末	四獣鏡	11.0	中国	破鏡
〃	〃	四乳鏡	9.4	〃	〃
福知山市谷尾谷1号墳	弥生末～古墳初	内行花文鏡	8.5	倭	小型
福知山市寺ノ段2号墳	〃	方格規矩鏡	17.0	中国	破鏡
〃	〃	内行花文鏡	17.0	〃	〃
綾部市成山2号墳	〃	飛禽鏡	9.5	〃	〃
福知山市広峯15号墳	古墳中	盤龍鏡	17.0	〃	〃
福知山市ヌクモ2号墳	〃	〃	11.5	〃	〃
福知山市八ヶ谷古墳	〃	四獣形鏡	8.9	倭	〃
綾部市聖塚古墳	〃	神獣鏡	13.6	〃	〃
綾部市私市円山古墳	〃	?	8.7	〃	〃
〃	〃	振文鏡	9.1	〃	〃
綾部市福垣北2号墳	〃	?	8.2	〃	〃
綾部市大畠古墳	?	四獣形鏡	9.8	〃	〃
〃	?	乳文鏡	9.8	〃	〃
綾部市荒神塚古墳	古墳後	内行花文鏡	9.2	〃	〃
福知山市武者ヶ谷2号墳	〃	内行花文鏡?	8.7	〃	〃
福知山市奉安塚古墳	〃	乳文鏡	8.3	〃	〃
福知山市弁財1号墳	〃	八鈴鏡	13.9	〃	〃



第5図 丹波・丹後・但馬の主要前期古墳

ガラス小玉・白玉・豎櫛が出土、主墳の1号墳からは剣・刀・銚・斧・鉞・刀子などが出土しており、広峯<sup>5</sup>15・14号墳の副葬品と甲乙つけがたい。

問題は盤龍鏡である。この鏡に刻まれた「実在しない」景初四年の銘をめぐる、三角縁神獸鏡は中国製か倭製か、内外の研究者の間で一大論争が起こった。論争は決着していないが、単純化していえば、作ったのは中国の工人だという点では意見は一致しているの

だから、残るは作った場所の問題である。中国でこの種の鏡が見つかるか、日本で范が見つかるか、物証の発見をまたざるを得ない。

広峯15号墳の盤龍鏡は、縁の断面は三角縁でなく斜縁であり、直径の大きさや外区文様帯の構成など細部に変異がみられるが、辰馬考古資料館に同范鏡があり、三角縁神獸鏡の範疇でとらえてよい<sup>6</sup>という。三角縁神獸鏡は、初期大和政権(畿内政権)が列島各地の首長を服従させていく過程で、そのあかしとして首長に配布したものとする説<sup>7</sup>が有力である。この鏡を出土する古墳は、各地域の有力な古墳であることが多く、鏡も数面あるいはそれ以上の数を保有している例が多い。1面のみの出土は、他に例がない訳ではないが、上掲のように古墳が特に傑出したものといえないことと合わせ、広峯15号墳を考える上で留意すべき点といえよう。

ところで、これまでに北丹波で出土した鏡は計19面が知られている(第3表)。中国製の鏡はそのうちの7例、約37%を占めるが、三角縁神獸鏡に属するのは、広峯15号墳の1例のみである。残りの4遺跡6例のうち、狸谷17号墳(四獸鏡・四乳鏡)、寺ノ段2号墳(方格規矩鏡・内行花文鏡)、成山2号墳(飛禽鏡)の3遺跡5例は、弥生時代終末期から古墳出現期に属する、古墳とは一線を画する墳墓であって、おそらく畿内の勢力とは無関係に、独自のルートでこれらの鏡を入手したものとみてよい。ちなみに、岡村秀典は、「上方作」



系半肉彫獣帯鏡・飛禽鏡・画像鏡・夔鳳鏡からなる後漢鏡の1群を「やや低いレベルの首長ないし共同体内の有力者層が後の畿内政権のような中央政権の手を経ることなく、朝鮮半島からの流通ルートによって入手したのではないか」と考えている。時期は降るが、上掲のヌクモ2号墳から出土した盤龍鏡も同様な解釈が有効である。この古墳は弥生墓の系譜をひく小方墳であって、埋葬施設も丹後地域に多い底に礫を敷く箱形木棺を採用する。

こうしてみると、広峯15号墳の鏡も、同様な解釈の可能性が十分あり得る。日本で出土する三角縁神獣鏡のすべてが畿内政権の配布したもの、とまではおそらく鏡の研究者も考えていないであろうし、上掲のとおり広峯15号墳鏡が三角縁神獣鏡としては異例の特徴をもつことも示唆的である。通説どおり畿内政権の配布鏡だとしても、広峯15号墳の被葬者が畿内政権から直接この鏡を入手したとは必ずしもいえない。この古墳は、たしかに前方後円墳ではあるが、外表施設や埋葬施設、副葬品の諸要素が典型的な畿内型古墳の特徴を備えているとはいいがたいことは上掲のとおりであるから、畿内政権と結んだある地域から、いわば間接的な形で鏡を入手した可能性は決して小さくないのである。

### 3 前方後円墳の伝播

広峯15号墳はどこから来たか それでは広峯15号墳は、どの地域との交渉によって出現したのであろうか。北丹波の周辺で広峯15号墳に先行する4世紀後半を代表する古墳は、但馬の城ノ山古墳、丹後の蛭子山1号墳、南丹波の垣内古墳、西丹波の丸山1号墳である。城ノ山古墳は円墳だが、他は前方後円墳である。蛭子山1号墳は外表3要素を備えた墳丘の全長145mの巨大古墳である。垣内古墳も同じく外表3要素を備えた墳丘長82mほどの大型古墳であり、粘土槨の内外から三角縁神獣鏡を含む鏡6面や玉類・碧玉製腕飾類・武器・武具・農工具など多量の副葬品が出土した典型的な畿内型古墳である<sup>9</sup>。

広峯15号墳に近いのは、西丹波の氷上郡山南町丸山1号墳である。この古墳は、後円部を2段、前方部を1段に築いた墳丘長48mの古墳で、葺石を伴うが埴輪はない。後円部に2基、前方部にも1基の竪穴式石室があり、後円部の南石室からは中国製四獣鏡1・鍬先2・鎌1・小型短冊形鉄斧1・鉄斧1・ノミ1・鋸1・錐1・鉈2・刀子1・剣2・鉾1・鉄鏃が、北石室からは小型内行花文鏡1・車輪石1・ガラス小玉17が、前方部石室からは剣1・鍬先1が出土している<sup>11</sup>。横にある2号墳は、外表3要素を欠く一辺18mほどの方墳であり、石室から管玉2・鍬先1・鎌2・斧1・鉈1が出土していることもつけ加えておこう。

丸山1号墳の後円部の2石室の一方が武器・農工具をもち、別の一方がそれを欠き碧玉製腕飾類と玉類にかえている点は、広峯15号墳と同14号墳、またヌクモ1号墳と同2号墳

との関係に対比される。丸山1号墳からは、加古川の上流である佐治川を遡り分水界を越えて土師川(由良川の支流)を下ること約35kmで広峯15号墳である。この「加古川・由良川の道」は、瀬戸内海と日本海とを結ぶ弥生時代以来の幹線ルートであった。<sup>12</sup>

**前方後円墳の伝播** 前方後円墳の出現が、必ずしも首長墓の変遷の画期とならなかった理由を、広峯15号墳の内容の中に探ってみた。いささか推論の積み重ねに過ぎたきらいがあるが、「前方後円墳の出現=畿内政権との結び付き」ととらえがちな前方後円墳の伝播の問題の1つのケーススタディである。

広峯15号墳は、あたかも大方墳の季節に咲いたあだ花のようである。この地域に本格的な前方後円墳の季節が到来するのは、ややしばらく後のことである。由良川を眼下に臨み築かれた大円墳私市円山古墳こそ、前方後円墳の季節の扉を開くものであったが、与えられた紙数も尽きた。機会を改めることとしたい。

(たいら・やすひさ=当センター)

- 1 平良泰久「綾部・福知山地方の古墳の周辺」(『京都考古』第16号 京都考古刊行会 1975年)  
平良泰久「方墳二態」(『京都府埋蔵文化財論集』第1集 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 1987年)
- 2 平良泰久・奥村清一郎・杉本宏・常盤井智行ほか『丹波の古墳Ⅰ—由良川流域の古墳—』(山城考古学研究会 1983年)
- 3 崎山正人『駅南地区発掘調査報告書—寺ノ段古墳群—広峯古墳群—広峯遺跡—』(『福知山市文化財調査報告書』第16集 福知山市教育委員会 1989年)
- 4 堤圭三郎・田中彰・増田孝彦・竹原一彦『豊富谷丘陵遺跡』(『京都府遺跡調査報告書』第1冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 1983年)
- 5 竹原一彦「スクモ古墳群」(『京都府遺跡調査概報』第37冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 1990年)
- 6 田中琢「卑弥呼の鏡と景初四年鏡」(『謎の鏡—卑弥呼の鏡と景初四年銘鏡—』 同朋舎出版 1989年)
- 7 小林行雄『古墳時代の研究』(青木書店 1961年)
- 8 岡村秀典「卑弥呼の鏡」(『邪馬台国の時代』 木耳社 1990年)
- 9 佐藤晃一『国指定史跡蛭子山古墳Ⅱ発掘調査概要報告』(『加悦町文化財調査概要』8 加悦町教育委員会 1989年)ほか
- 10 森浩一ほか『園部垣内古墳』(『同志社大学文学部考古学調査報告』第6冊 同志社大学文学部考古学研究室 1990年)
- 11 山本三郎・井守徳男『兵庫県氷上郡山南町丸山古墳調査の概要』(山南町教育委員会 1977年)
- 12 佐原眞「大和川と淀川」(『古代の日本』第5巻 角川書店 1970年)